

# 生活科

興井綾子  
坂井文代

## 1 生活科の本質について

私たちは、生活科の本質を次のようなものと考えている。

具体的な活動や体験を通して 自立への基礎を養うこと

ここでいう自立とは、①学習活動を自ら進んで行うという学習上の自立 ②自らよりよい生活を創りだしていくことができるという生活上の自立 ③自分のよさに気づき自分の在り方について考えていく精神的な自立の3つの自立を意味している。

では、どのようにすれば先にあげた自立への基礎が養われるのであろうか。

私たちは、子ども達が、身近な人々、社会及び自然と直接かかわる具体的な活動や体験をすることによって、学ぶことの楽しさを体全体で感じ取り、満足感・成就感を得ることができると考えている。そして、学ぶことの楽しさや満足感・成就感は「次は～してみたい」という新たな意欲を生みだし、子ども達は、より積極的に環境とかかわったり、自分の生活や自分自身について考えるであろう。

このような活動や体験を繰り返すことにより、自立への基礎を養うことができると期待しているのである。

## 2 本質に基づく基礎・基本について

それでは、生活科で大切にしたい基礎・基本とは何だろうか。

それは、子どもが身近な人々、社会及び自然と直接かかわる具体的な活動や体験であり、これらを通して生まれる自分への気づきであると考えられる。なぜなら、生活科の学習は、子どもが体全体で身近な環境に直接働きかけ、創造的な行為が行われるようにすることを重視しているからである。そして、自分と身近な環境とのかかわりに関心をもつことで、それらが自分にとってもつ意味に気づき、身の回りにあるものをもう一度見直し、自分なりの思いや願いを持って、新たな働きかけをしたり表現したりするからである。

このような活動を通して、子どもが自分のよさや可能性に気付くことは、自立への基礎を養う上で大切であると考えられる。さらに、活動する過程で生活上必要な習慣や技能を身に付けることによって、対象とよりよくかかわることができ、豊かな活動が展開できるであろう。

そこで、生活科における基礎・基本を次のようにまとめてみた。

身近な人々・社会及び自然と 自分なりの思いや願いをもってかかわること  
また それらと自分とのかかわりに関心をもつこと  
さらに その過程で必要な習慣や技能を身に付けること

### 3 自己の学びを広げ深めるについて

生活科における自己の学びを広げ深めていくこととは、子どもが身近な人々、社会及び自然とかわることを通して、自分なりに生活を豊かにしていくことと考える。では、自分なりに生活を豊かにすることを促す学びとはどうあればよいのであろうか。

私たちはこれまでの実践から、次のように考えた。

#### (1) 具体的な活動や体験を重視する

具体的な活動や体験とは、例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして身近な人々、社会、自然に直接働きかける学習活動である。さらに、そうした活動から生まれた楽しさや気付きを、絵や文、劇化などで表現する学習活動である。このような活動を通じた対象とのかかわり合いの中で、子ども達は五感を働かせて、感じ、考え、気付き、相互交渉する能力を身に付けていくと考える。

その際私たちは、人々、社会、自然との出会わせ方を工夫することが大切である。対象との魅力的な出会いを作り出すことによって、子どもの意欲は高まり、活動が広がるであろう。

#### (2) 子どもの知的な気付きを大切にす

子どもは活動や体験から様々な気付きを生み出す。それは、「きれいだな」「おもしろいな」といった情緒的なものであったり、「おもいをつけるとよく飛ぶよ」といったような比較や関係付けを行った上で得られた考え方であったりする。私たちは、後者の気付きはもちろん、前者の素朴な気付きも知的な認識への第一歩ととらえ、すべてを知的な気付きとして捉えていかなければならない。なぜなら、活動や体験から生まれる気付きは、どのようなものでも子どもの成長の一端であり、知的な認識が現れてくる過程だからである。そのために私たちは、子どもの発言やしぐさに見られる情緒的なかわりを大切に、活動から生まれた気付きを見落とさないようにしなければならない。そして、それらのもつ意義や価値を明確にしていく必要がある。

#### (3) 活動の連続性を図り、意識の流れを大切にす

私たちは子どもの「～をしたい」「もっと～をしたい」という意欲を引き出すとともに、その意欲が持続する活動を展開していく必要があると考える。子どもの発想や気持ちにそった学習の流れの中で、子ども達は活動に見通しが持てるようになり、活動を自分のものとしてとらえるようになる。つまり、活動の連続性を図り、子どもの意識を大切にすることによって子どもにとって必然性があり、発展や深まりが見られる学習活動が展開されるのである。いつ、どこで、どのような活動を行うことがよいかを、子どもとともに話し合い考えていくことが重要であろう。

#### (4) 活動を通して生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる

生活上必要な習慣や技能とは、遊んだり、学習したり、人と触れ合ったりするために、必要な習慣や技能である。生活上必要な習慣や技能を身に付けることにより、子ども達は人や社会、自然などの身近な対象とよりよくかわることができる。

しかし、これらの習慣や技能は、それだけを取り出して指導するのではなく、子ども達が対象とかわる活動の過程で身に付けさせなくてはならない。私たちは、活動のどのような場面で、どのような指導が必要になるかを想定し、活動の中に位置づけていくことが大切であると考え

る。  
また、これらの習慣や技能は、様々な活動の中で繰り返し体験することでしっかり身に付けていく。学習が学校生活のみならず、家庭生活にまで広がるよう、家庭との連携を大切に指導をすすめていきたい。